



「私には夢がある。いつの日かジョージアの赤土の丘の上で、かつての奴隷の子孫たちとかつての奴隷所有者の子孫が、同胞として同じテーブルにつくことができるという夢だ」

これは、黒人差別の撤廃などを訴える「公民権運動」の父と呼ばれたマーチン・ルーサー・キング牧師が1963年8月28日、米の首都ワシントンDCで行ったあまりにも有名な演説の一節だ。

私は小学生のとき、この演説を本で読み、なぜか涙が止まらない自分に戸惑っていた。その頃、外国人さえ直に見たこともなく、人種差別やその歴史、社会の実態も知らない子供だった私だ…。

真実の言葉は永遠に人の心に刻まれるものだ。その後、私は音楽を通してさまざまな国を訪れ、さまざまな経験を積んだ。

歌を抱きしめ夢に向かいたい



この地球上には本当にいろいろな人がいて、今、この瞬間にも想像を超えるような事が起こっていることを知った。また同時に、自分がいかに無力であるかも実感した。その一方、どれほど多くの恩恵を受け、こうして生かされているかも、音楽と同様に学んできたように感じる。

そして、キング牧師にはもう一つ有名な言葉がある。

「人生で最も永続的かつ緊急の問いかけは『他人のために今あなたは何をしているか』である」

この言葉は私の中で今も明確に生き続けている。どんな非力な人間でも、必ず何かで

きることがある。小さな思いを行動に移す勇気さえあれば…。

有名な賛美歌「アメイジング・グレイス（素晴らしき神の恵み）」を歌いながら、いつの日か、世界が互いの多様性を受け入れ、真の平和を実現すること、そしてこの世に生を受けた誰もが安らぎと喜びを得られることを願った。

日々、厳しい現実のまっただ中で、誰かのために命に携わる仕事に従事する人たちがいる。私も歌を抱きしめ夢に向かおうと思う。

(さとう・しのぶ＝声楽家)

＝毎月第3金曜日掲載

